



令和3年7月13日

海上保安庁

外国海上保安機関に対する「初」のコロナ患者搬送研修 ～海保のコロナ患者搬送技術をパラオの海上保安機関職員へ～

海上保安庁は、7月21日（水）、鹿児島において、パラオ共和国海上保安機関職員に対して「新型コロナウイルス感染症患者搬送対応」研修を実施します。

本研修は、新型コロナウイルスの感染拡大以降、海上保安庁モバイルコーポレーションチームとして初の外国海上保安機関職員との直接対面での研修であり、公益財団法人日本財団の支援のもと実施するものです。



【KEDAM要目】

総トン数：257トン

全長：40メートル

乗組員数：13名

海上保安庁は、パラオ共和国の海上保安機関である「パラオ共和国法務省海上警備・魚類野生生物保護局海上法令執行部（DML E）」に、日本財団の支援のもと平成30年から海上保安アドバイザーを派遣するとともに、外国海上保安機関の海上保安能力向上支援の専従部門である海上保安庁モバイルコーポレーションチーム（MCT）を定期的に派遣、コロナ禍においてはオンラインで能力向上支援を行っています。

日本財団からパラオ共和国に供与された巡視船「KEDAM」（DML E所属）が、定期修理のため鹿児島港に寄港している機会を活用し、MCTを鹿児島に派遣して、日本財団の支援のもと、鹿児島航空基地機動救難士の協力を得て、次のとおり「新型コロナウイルス感染症患者搬送対応」研修を行うことになりました。

1. 日時：令和3年7月21日（水） 午前9時00分から午前12時00分まで
午後1時00分から午後4時00分まで
2. 場所：鹿児島港北埠頭2号岸壁着岸中の巡視船「KEDAM」
（荒天時：鹿児島海上保安部谷山船艇倉庫）

3. 研修指導者：MCT 4名、鹿児島航空基地機動救難士 2名

4. 研修対象者：DMLE所属巡視船「KEDAM」乗組員

5. 主な研修内容

9：00～ 9：20 新型コロナウイルス患者搬送対応に係る基礎知識（座学）

9：20～10：10 担架及び毛布を使用した患者搬送法（実技）

10：30～12：00 新型コロナウイルス感染防護装備の装着及び脱装（実技）

13：00～14：30 船内養生及び船内ゾーニング（実技）

15：00～16：00 想定訓練（新型コロナ感染疑い患者搬送）（実技）

6. その他

本研修には、日本財団の支援を受けてパラオ共和国に派遣している海上保安アドバイザーも参加し、海上保安庁職員とともに研修指導にあたることとしております。